



CAM（自動裁断機）

設備投資のみ

株式会社ソーイングアイ CAM・CAD導入による 裁断作業等の効率化

それまで柄合せ裁断は、全て手作業で行っていたが、柄合せ可能なCAMを導入して生産性、品質を向上させた。CADの導入はデザインの多様化による型の管理、グレーディング作業の効率化につながった。

〈 事業のきっかけ 〉 OPPORTUNITY

当社は、平成14年にかりゆしウェアを販売する「パイブニット株式会社」の生産部門が独立した会社である。縫製工程において、当初、柄合わせ裁断は全て手作業で行っていた。デザインから起こした型紙を生地の上に置いてハンドカッターで大枠に切り、さらにバンドナイフで型紙通りに切るという作業は、技術の習得に時間がかかる上、鋭利な刃物が回転するため慎重な扱いが要求された。若い人材の雇用確保が難しくなる中で、裁断作業スタッフの高齢化への対応が課題となってきた。また、大量生産用のCAM(自動裁断機)は導入していたが、柄合わせは依然手作業で行っていた。このような課題を解決するために、ものづくり補助事業を活用して、手作業をなくし、安全な裁断作業を可能にするCAM/CADシステムを導入した。

〈 事業の取り組み 〉 PROGRESS

ものづくり補助事業により、アパレルCAMシステム(New P-CAM181L)、アパレルCADシステム(SDS-ONE APEX3-2,PMK2000)を導入した。導入後の工程は、まずCADで、デザインから起こした型紙のデータをもとに、効率よく生地を裁断するためのマーキングを行う。次の柄合わせは、CAMのモニタ上で、CAMに取り付けられているカメラで確認しながら微調整することができる。CADデータはCAMの上部に設置されているプロジェクターで生地の上に実寸で投影され、目視で確認したあと自動裁断される。CADの導入にあたっては、若い人材を確保し、マーキングの技術を習得させた。従来3~4人で行っていた裁断の工程は、CAMの導入により2人で対応できるようになった。

COMPANY MIND

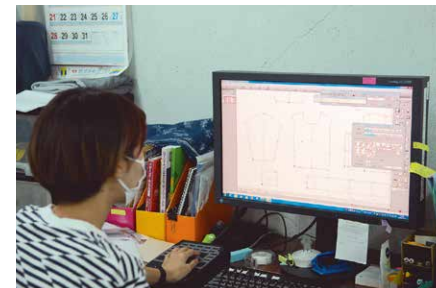
熱血起業人

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

さらなる省力化で生産増を目指す

ものづくり補助事業によって、顧客ニーズを敏感にとらえることができる販売会社と、本事業で生産体制を強化した生産会社(当社)が協力しあうことにより、顧客に喜ばれるかりゆしウェアの生産・販売体制を構築できた。かりゆしウェアの県内全生産数が年間44万~45万枚で停滞しているのは需要が増えないからではなく、生産能力の限界というのが現状だ。県外の企業や自治体もかりゆしウェアを採用するところが増えており、当社にも引合いがきている。今後、生産性向上をすすめることで、生産量の増加が見込める。現在当社で手掛けている4つのブランドイメージをさらに高めていきたい。

株式会社ソーイングアイ
代表取締役社長 大坪 慎治



CADによるマーキング



プロジェクターで生地に投影されたCADのマーキングデータを目視で確認する



柄合わせ

〈 事業の成果 〉 ACHIEVEMENT

ものづくり補助事業で導入したCADにより、データ化された正確なパターンを制作することができるようになった。さらにCADからCAMにデータ移行されて裁断するため、正確なパターンで裁断することができ、より効率的にパーツを作製することができるようになった。またCAMを扱う人材育成を行い、効率よく裁断することが可能になった。裁断作業に要する人員も導入以前は3~4人で行っていたが、導入後は2人で対応しており、自動化によって作業時間も大幅に短縮された。

一方、標準寸法の型紙を、必要なサイズに応じて拡大したり、縮小したりするグレーディングも、CADの画面上で容易かつ、スピーディーにできるようになったほか、制作したデザインや型紙のデータも一元的に保存して、再活用することが可能になった。

作業に要する人員は減っているものの、生産量が維持できているのは、ものづくり補助事業に取り組んだ成果の一つである。

COMPANY OVERVIEW

代表者名	代表取締役社長 大坪 慎治
設立年	平成14年
所在地	〒904-1101 沖縄県うるま市石川東山本町2-12-1
TEL	098-964-2464
FAX	098-965-4429
ホームページ	http://www.kariyushi-gettou.com/
資本金	300万円
従業員数	41人
業種	衣料品製造業

